

16年振り、待望のソロ・リサイタルが遂に実現!

Maria João Pires *Piano Recital*

演奏家として作品にアプローチする場合、自分なりに作品を捉え、解釈するという方法があります。

あるいはそれと逆に、作品を捉えたりせず、あるがままに受け入れることもまた可能なのです。

—マリア・ジョアン・ピリス 訳: 木村博江—

陰影に富んだ情感溢れる演奏で多くのファンを魅了しているピリスのシューベルト。1998年に発表された即興曲全集はシューベルトの抒情とメランコリーが美しく表現された名盤として今でも多くのファンに愛され続けています。

そして今年、15年ぶりにシューベルトの新録音が届きました。ピリスの指先から紡ぎ出される音楽は、穏やかに、無心に、シューベルトの深い孤独と憂愁をありのまま自然に映し出しており、余分な解釈や装飾を排除した美しく完璧なフォルムを形成しています。

今回、16年振りに実現したソロ・リサイタルでは、この新録音で聴く者に深い感銘を与えた、シューベルト最後のソナタにして畢生の傑作、第21番のソナタが演奏されます。

磨き抜かれた技巧と音色、非凡な構成力と表現力で魅了して止まないピリスの音楽世界は、再び深い感動を呼び起こしてくれることでしょう。

マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ) Maria João Pires, piano

同世代の演奏家を代表するピアニストのひとり。彼女の芸術の持つゆるぎない完成度、雄弁さ、力強さは、聴衆を魅了してやまない。

1944年7月、リスボンに生まれ、1948年には初の公演を行った。後にドイツにてローゼル・シュミットとカール・エンゲルに師事する。ソリストとしてはもとより室内楽活動に好んで取り組み、オーギュスタン・デュメイ、アントニオ・メネセスなどを始めとする多くのアーティストと共演。

また、1970年以降、芸術が生活、地域社会、教育に与える影響の研究と、社会の中で教育学的理論を実践するための新たな方法の立案に力を注いでいる。ここ10年間は、世界各地から集まった学生を対象に多くのワークショップを実施し、自らの哲学や教授法を日本、ブラジル、ポルトガル、フランス、スイスに紹介してきた。最近では、ベルギーの

エリザベート王妃音楽大学で教鞭を執り、優れた才能を持つ若手ピアニストの指導にあたっている。

2013/2014シーズンには、ソロ・リサイタル、アントニオ・メネセスとの室内楽コンサートのほか、ベルナルド・ハイティンク、クラウディオ・アバド、リカルド・シャイー、ジョン・エリオット・ガーディナー、イヴァン・フィッシャー等の指揮と、ヨーロッパの主要オーケストラと共演する。また、2014年春、ロビン・ティチャーティ指揮スコットランド室内管弦楽団とのアジアツアーが予定されている。

マリア・ジョアン・ピリスの録音はドイツ・グラモフォンから数多くリリースされており、独奏曲から室内楽、協奏曲と幅広く多様性に富んでいる。最新のシューベルト独奏曲のCDは、批評家から高い評価を受けている。

AIR G AIR-G (FM北海道) のクラシック音楽入門ラジオ番組
「朝クラ!」 毎週日曜 日曜 6:00~6:55 放送
DJ: 高山秀毅 HIDEKI TAKAYAMA
[mail] asakura@air-g.co.jp



マリア・ジョアン・ピリス

シューベルト： ピアノ・ソナタ 第16番&第21番

マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ)

録音: 2011年7月
ハンブルク=ハールブルク
SHM-CD ● UCCG-1613
定価 ¥ 2,800 (税抜価格 ¥ 2,667)



ウィグモア・ホール・リサイタル

シューベルト: アルペジオーネ・ソナタ

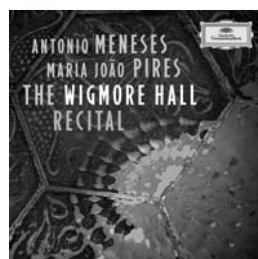
ブラームス: 3つの間奏曲

メンデルスゾーン: 無言歌 作品109

ブラームス: チェロ・ソナタ 第1番

バッハ: パストラーレ へ長調 BWV590

アントニオ・メネセス (チェロ)
マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ)
録音: 2012年1月
ロンドン、ウィグモア・ホール(ライブ)
SHM-CD ● UCCG-1614
定価 ¥ 2,800 (税抜価格 ¥ 2,667)



発売・販売元: ユニバーサル ミュージック

ユニバーサル ミュージックのホームページで 商品が購入できるようになりました! (一部商品を除く)

http://www.universal-music.co.jp/classics/